

【動画あり】コロナ禍の中、秋学期がスタート 感染防止対策を徹底し対面授業 7割再開へ

追手門学院大学（大阪府茨木市、学長：真銅正宏）は9月14日（月）より秋学期を開始し、オンラインを併用しながら、全体の約7割の授業を対面形式で再開しています。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、春学期の授業は全てオンライン授業とし、緊急事態宣言解除後、6月より一部の実技・実習等の授業や資格系科目、新入生演習科目を対面授業で再開しました。

秋学期からはオンラインを併用しながら、開講している授業科目の総クラス数1263のうち、約7割にあたる929クラスを対面形式とし、受講者数の多い大講義の授業についてはオンデマンドを含めたオンライン授業で運用しています。

各キャンパスでは感染防止対策を徹底し、三密を避ける通行経路を設定し、出入口付近では自動検温器による検温および手指の消毒のほか、マスクの着用の徹底を呼びかけています。教室も換気に加え、間隔を空けた座席配置としています。

1年生にとっては本格的にキャンパスに通うこともあり、社会学部1年の男子学生は「学生生活は始まった実感がわいてきました」、経営学部1年生の女子学生は「さっそく友人ができ安心しました」と話していました。

動画「秋学期がはじまりました」⇒<https://www.youtube.com/watch?v=m07xnTEtdto&t=11s>

【ポイント】

○秋学期はオンラインを併用しながら対面授業実施

○感染防止対策を徹底し、開講科目の総クラス数の約7割にあたる929クラスで対面形式



入口で検温と消毒を行う様子



対面授業の様子



学内でオンライン授業を受ける学生